

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> この杉並第五小学校と若杉小学校の地域が、どういう地域で、この学校の本当にオリジナルな教育目標はどんなところにあるのかということ、まず議論していただくことを期待したい。 教育目標についてはこれから決定していく部分があるが、杉並区全体の知・徳・体・食という教育ビジョンの考え方を踏まえて、キャリア教育、体力増強のための健康教育なども重点的に行っていきたい。教育内容と連動する施設建設等の考え方もおそらくそこでは出てくるのではないか。 杉並区の教育ビジョンについて、杉並区という地域、杉並区の子どもたちを見据えたビジョンだということを認識していく必要があり、委員の皆さんにもこの教育ビジョンの内容を十分理解していただきたい。 学力の問題、人間性をつくる問題、どういう場所でどういう生活環境をつくっていくのか、そういったことを話し合っていくのがこの場である。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教室形態等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 杉並区には杉並第十小学校以来のオープン教室の伝統がありますが、これをどのように総括し、どのように発展させるのか、どこが課題であって、どこが今後改善していくべきところなのかをきちんと総括しないと、杉並区の小学校計画のあり方の将来が見えてこない。 習熟度別編成など少人数に集団を分けての学習が杉並区に本当に定着していくのかどうか。教育の方法論、現場としても、そういった方向で学校を考えていきたいということを確認できるかが、非常にこれから大事になってくる。 今後長い間に渡って使える学校をつくるために、子どもたちの学習、生活空間はどうあればよいのかということ、ここを議論する必要がある。 あえて閉じてつくっている学校もあります。閉じてはいるが、ガラス張りにして見通せるようにするなど、今、いろいろな考え方が出てきているので、オープン教室についても、皆さんから様々なご意見をいただきながら、考えていきたい。 杉並第十小学校はもう築20年になるが、オープン教室のスタイルで、これはよいと感じた。 オープン教室にした場合、音はどうなのか。また、空間を閉じる必要がある場合にどうするのか。廊下と教室の間の壁は動かすことができても、教室と教室間の壁を可動式にすることはできないのか。 教室に適応しづらい子どもが最近増えてきているので、たとえば小さな部屋をつくってそういう子どもたちが補助教員の先生とそこに入って落ち着くまで静かに環境を整えるとか、クラスからあまり隔絶せずに元に戻りやすいような、環境をつくっていただきたい。 現在の杉並第五小学校は視聴覚室のような広いスペースがなくて、先生方からもそういったスペースがほしいという意見が出ているが、広いスペースであると同時に、少人数学習にも対応できる狭いスペースもつくれるなど、多目的に使える工夫をしていただきたい。 前任校の永福南小学校は昇降口を入りますと上まで吹き抜けになっていて、とても気持ちのよい空間だった。また、校舎と校舎の間が中庭になっていて、とても明るい。できる範囲で活かしたら素晴らしい学校になる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">エコスクール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校建築は採光面が非常に大きいため、暖房効率の悪い、断熱性能のない建物になっている。たとえば、外断熱をして、ペアガラスにして、全熱交換の換気扇を入れれば、冬でもほとんどストーブを焚かなくてもよいぐらい断熱性能がよくなる。学校建築の基本的な構造を考え、熱を逃がさない校舎をつくるということも重要なことである。 ・ 暑い国や地域では必ず幅の大きい庇や軒があります。ぜひ新しい校舎にはベランダをつけていただきたい。4年生の教室のベランダによしずを張っただけでかなりの気温差を感じましたので、そういったことが可能になるように、ベランダは必ずつけていただきたい。 ・ 私の子どもは学校の芝生の上でサッカーをすることが夢なのだが、学校に芝生があって、緑があって、自然な空気が流れているというのは本当に理想的だと思う。 ・ これだけの敷地の中でどれだけのものができるのかを、専門家の方の立場から提示していただけるともっとよく考えられる。 ・ 暑い都市環境のため、校舎の断熱性をよくした上で、ぜひ冷房を入れていただきたい。また、冬も化石燃料を燃やすタイプの暖房ではなく、ヒートポンプ式が環境によいと考える。それにより、夏も冬も快適な学習環境がつけれる。 ・ 自然採冷ということで、校舎に植栽など配慮していくのも、やはりお金がかかる。どちらがお金がかかるのかということなども細かく検討すればよい。 ・ 子どもたちには将来のエネルギーについて学習していただきたいと思いますので、太陽光発電、風力発電など、環境教育ができる程度の規模でよいですから、設置していただきたい。 ・ ウッドデッキがよいなと感じた。 ・ 単に木が植えてあるだけでなく、生活空間の中で植えられているのがよい。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ユニバーサルデザイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、相当程度障害を持った子どもも、普通学級の中で共に勉強していくことになるほか、地域の方が学校を利用する中で、相当程度障害を持った成人の方、高齢者の方も利用され、この学校を拠点としていろいろな活動をするようなことが、今後どんどん進んでいくような校舎づくりをしてほしい。 ・ 地域の中の拠点という部分と併せて、校内でも児童の特別支援教育の体制を踏まえたユニバーサルデザインを考えていかなければならない。 ・

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域開放</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杉並第十小学校は、公園と学校が一体化しており、プールも地域の方が使えるようになっていて、学校と地域が連携している感じが出ていた。 ・ すでに学校は地域の中で適当な広さを備えた避難場所として認識されている。子どもたちの教育現場プラス地域への密着度、これが重要だと考える。 ・ 新しい学校は地域開放型の学校であってほしい。家庭科室などの特別教室を地域に開放するために普通教室のゾーンとは分けて計画したり、地域開放型のコミュニティスペースなども併設されるとよい。土曜日学校などの活動を行っている立場としてそういったスペースがあると嬉しい。 ・ 学校開放は、たとえば授業中でも地域の方に使っていただくということがあってもよいのではないかと思う。子どもたちが勉強しているそばのオープンスペースで高齢者の方が何か作業をしているというような、子どもも高齢者も同時にいる状態というのも、地域の中の学校としての一つのステップだと考える。 ・ 説明のあった多治見市の中学校は、地域の方が通り抜ける道があり、地域の方が授業中の中学校を通り抜けていく、というのが非常に興味深かった。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">冷房</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日のような暑い日に冷房のない環境というのは子どもたちにとっては非常に辛いものだと考える。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">安全・防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災時避難所としてこの学校が大きな役割を果たしていく。 ・ 物理的に門などは閉じるようになっていくということだが、統合新校はどのような形で作るのか。 ・ 建物の上に木や土が乗るのは耐久性などの観点から問題はないのか。 ・ 災害時には電気やガスの供給が止まってしまうことが予想されるので、自家発電設備を備えていただきたい。 ・ 窓辺に棚が置いてあって、なんでこんな危ない場所があるのかと思った。安全面については十分注意して設計していただきたい。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">児童の運動スペースと緑化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちがのびのびと遊ぶスペースがこの地域にはないので、学校の中にはできるだけ子どもたちが遊べるスペースを確保していただきたい。屋上緑化やビオトープなどをつくることによって子どもたちが走り回れるスペースが減ることのないように、また、校庭緑化などで、芝生化した場合、養生期間に子どもたちが遊べなくなりますので、そういった養生期間のいらない草を使っただけでないか。 ・ 緑化やビオトープづくりなどをすればするほど、子どもたちの遊ぶスペースが少なくなってしまうのではないか。限られた敷地の中に建設するため、そういったことも考慮していただきたい。 ・ 緑化をするにしても、屋上の上に藤棚を設けるなど、子どもたちが運動の場として屋上を使うような形にすればよいのではないか。 ・ 1階部分を全て校庭として使い、子どもたちが十二分に走り回れるようにしていただきたい。

杉五・若杉統合協議会建設検討部会 意見・要望 平成18年9月11日

<p>IT 化 メ デ ィ ア 化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内の IT 環境の整備も進めてほしい。スライドなどの映像によって授業を行うということもこれから多くなると思うが、照明などを工夫することによって、メモはとりやすく、映像もよく見えるような教室づくりを行っていただきたい。
<p>ランド マーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合新校の建物に、子どもたちにとってシンボルになるようなものがあればよい。シンボルは地域にとってのランドマークにもなるように地域住民にとってもこの学校が親しみを持てるように、そういったものがあるとよい。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算は限られているので、いつか理想と予算とのバランスについて考えなければならない。 ・ 現実に与えられた敷地面積と理想とのバランスを考えることが一つのテーマとなる。 ・ 統合新校と同じぐらいの規模の学校について参考として見学できないか。子どもが実際に授業を行っている時に見学できればと思う。 ・ 学校事例を見学したり、見学できなくてもスライドなどで紹介していただきたい。 ・ 「先進的」で「カッコいい」ものは多くあって、そういったものを取り入れたいという気持ちもあるかもしれないが、本当に現場の先生方と子どもたちには何が必要なのか、注意して考えていきたい。先進的なものについても、後で無用の長物にならないように、長い計画で考えたい。 ・ カーペットは床に座れるだとか、よい所もあるが、アレルギーの子どものことなど、やはり衛生上の問題を考えると駄目だと思う。 ・ 若杉小学校の敷地に地域の方が利用できるプール付きのスポーツ施設をつくって、統合新校にはプールをつくらずに子どもたちはプールの授業の時はそこに通うというのも一つの案だと思う。